

(発表資料)

2026年2月6日
公益財団法人 放送文化基金

2025年度助成対象(技術開発部門/人文社会部門/イベント事業部門【後期】) の決定について

放送文化基金 2025年度の助成対象決定 【技術開発部門、人文社会部門、イベント事業部門（後期）】

今回の申請は、技術開発 33 件、人文社会 52 件、イベント事業（後期）28 件の合わせて 113 件でした。審査の結果、採択された件数は、技術開発 10 件、人文社会 17 件、イベント事業（後期）11 件の合わせて 38 件。助成金額は、それぞれ技術開発に 3,471 万円、人文社会に 1,474 万円、イベント事業（後期）が 1,880 万円となりました。

8 月に決定したイベント事業（前期）11 件、1,890 万円と合わせて、2025 年度の助成総額 8,715 万円となりました。

今回助成対象に決まった各プロジェクトは、今年 4 月から来年 3 月までの 1 年間プロジェクトを実施し、報告をまとめることになります。

なお、3 月 4 日（水）午後 3 時よりホテルルポール麹町（東京都千代田区）で過去に助成したプロジェクトの中から成果報告をしていただく「成果報告会」を開催し、午後 5 時より助成金贈呈式を開催します。

公益財団法人 放送文化基金
(担当) 申斐、馬越、安部
〒150-0047 東京都渋谷区神山町 9-6
TEL 03-5738-7151

2025年度助成【技術開発】

テーマ	申請者	助成金額 (万円)
赤外撮影に革命を起こすゲルマニウム撮像素子	東京都市大学電気電子通信工学科 教授 澤野 憲太郎	242
難燃性を付与した低分子ゲル化剤の開発と有機ゲル電解質への応用	有機分子材料工学研究会 代表 岡本 浩明 (山口大学大学院 准教授)	456
SFNブースターの伝搬試験に向けた実験機材整備	東京工業高等専門学校電気工学科 教授 木村 知彦	384
放送・配信に向けた点群圧縮の効率的パッチ生成手法に関する研究	東京農工大学大学院工学研究院 教授 岩崎 裕江	400
次世代バーチャルスタジオ映像のための指向性面光源シェーディング手法の開発	埼玉大学理 工学研究科 教授 岩崎 慶	264
台本情報を起点とした段階的なデータベース構築によるバリアフリー字幕制作AIの開発	筑波技術大学産業技術学部 准教授 渡辺 知恵美	225
大規模言語モデルを活用した言語バリアフリー放送の実現	大規模言語モデルによる言語バリアフリー化研究グループ 代表 宇津呂 武仁 (筑波大学 教授)	319
場面や心情を考慮した効果音・環境音キャプションの自動生成	京都大学大学院情報学研究科 准教授 井本 桂右	325
全視野自然画像に対するヒト視覚特性の認知神経学的解析	東京大学大学院総合文化研究科 教授 本吉 勇	420
リアルアバターの他者・AI操作による自己感喪失の定量化と受容性検討	豊橋技術科学大学大学院工学研究科 教授 北崎 充晃	436

(所属・肩書は申請時)

2025年度助成〔人文社会〕

テーマ	申請者	助成金額 (万円)
ラジオ沖縄と女性運動——85年のうないフェスティバルを起点に	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 修士課程 河原 千春	100
震災体験『語り合い』の番組制作による『語り継ぎ』の実証研究	震災の伝承によるまちづくりの担い手育成研究会 代表 土屋 依子 (目白大学 准教授)	63
デジタル情報空間の秩序形成のための放送の果たすべき役割—AI時代の放送文化	デジタル情報空間の秩序形成と放送文化研究会 代表 林 秀弥 (名古屋大学大学院 教授)	100
放送業界における人材育成の今日的課題・可能性に関する調査研究	「放送業界における人材育成」調査研究プロジェクト 代表 米倉 律 (日本大学 教授)	70
放送業界のジェンダー平等に関する実態調査2025(2)	GCN(ジェンダーとコミュニケーションネットワーク) 共同代表 林 怡蔑 (立教大学 教授)	71
テレビ文化の拡張と再編に関する総合的研究～ポストテレビからトランステレビへ～	トランステレビ研究会 代表 丹羽 美之 (東京大学大学院 教授)	120
ユニバーサルアクセス権の国際制度比較と日本への適用可能性	早稲田大学スポーツ科学学術院 准教授 大井 義洋	73
インターネット時代に対応したメディア市場モデルの構築と広告効果の推定	長崎大学経済学部 教授 宮倉 学	80
配信時代の政治的番組とジレンマ：台湾「政治ドラマ」の事例から	慶應義塾大学総合政策学部 教授 渡辺 将人	200
森崎和江の集団創造としてのテレビドキュメンタリー	大阪大学大学院人文学研究科 教授 渡邊 英理	100

テーマ	申請者	助成金額 (万円)
ラジオ放送が形成する学習文化：「大学受験ラジオ講座」のメディア史	奈良女子大学文学部 特任助教 藤村 達也	70
1980～90年の子ども向けアニメ作品をめぐる女性制作者と家族表象の関係性の研究（3）	Women in Japanese Animation (WIJA) 研究会 代表 須川 亜紀子 (横浜国立大学 教授)	62
1930年代のラジオ放送と南米行き移民をめぐる広報メディアの研究（その2）	国際日本文化研究センター 特定研究員 根川 幸男	45
デジタル時代におけるジャーナリストのトラウマ経験の実態調査と報道現場への提言	ジャーナリズムとトラウマ研究会 共同代表 李 美淑 (大妻女子大学 准教授)	90
SNS時代の報道を巡る著作物利用に係る権利制限の新たな解釈論	著作物の「写り込み」研究会 代表 末宗 達行 (横浜国立大学大学院 准教授)	70
植民地のラジオに見る多義性：台湾放送協会への台湾人参与と限界	東京大学大学院総合文化研究科 博士後期課程 原口 直希	100
1950年代から70年代のハワイにおける日本語テレビ文化	佛教大学社会学部 教授 大場 吾郎	60

(所属・肩書は申請時)

2025年度助成【イベント事業（後期）】

タイトル	申請者	助成金額 (万円)
地方民放局のコンテンツを海外に展開するためのフォーマットを開発する取り組み	日本国際放送・テレビせとうち共同プロジェクト 谷 草生 (日本国際放送 メディア事業推進部部長)	200
地域放送のオンデマンド化がもたらす価値の検証事業	コミュニティ FM オンデマンド実証委員会 代表 小保方 貴之 (FM 桐生 事業本部長)	200
アナウンサー防災朗読イベント～地域災害を語り継ぐ～	BSN 防災減災プロジェクト委員会 委員長 上村 啓 (新潟放送 執行役員メディアビジネス局長)	70
「After prison」インタビュー勉強会とガイドライン制作	「After prison」インタビュープロジェクト 事務局 芳賀 美幸 (中日新聞社 記者)	80
ジャーナリストカフェ～地域の若者と報道の「いま」を語る対話イベント～	カナリア舎 代表取締役 大越 健介	180
地域ジャーナリズムにおけるデータ報道・OSINT の推進と実践体制の構築	地域ジャーナリズムデータ報道・OSINT 推進グループ 代表 坂本 信博 (西日本新聞社 メディア戦略担当部長)	200
ABU Con-FEST, Media&Culture Days 2026	アジア太平洋放送連合 (ABU) 番組局長 青木 一徳	250
AIBD/HBF 地域ワークショップ：子供の問題に関する責任あるメディアの語り口	Asia-Pacific Institute For Broadcasting Development (AIBD) Secretariat Director Gnanapragasam Philomena	150
Docedge コルカタ、アジア・ドキュメンタリー・フォーラム 2027	Documentary Resource Initiative President Majumdar Nilotpal	120
放送文化とジェンダー研究の軌跡－先駆者の声を未来へつなぐ	国際ジェンダー学会メディアとカルチャー分科会研究史記録編纂委員会 代表 小林 直美 (愛知工科大学 准教授)	180

タイトル	申請者	助成金額 (万円)
未来へつなぐ放送脚本—記録から創造へ	日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム 代表理事 池端 俊策	250

(所属・肩書は申請時)



放送文化基金 成果報告会

近年助成したプロジェクトの成果を発表する、成果報告会を開催いたします。
皆様のご参加をお待ちしております。

15:00
開会挨拶

放送文化基金 理事長 濱田 純一

15:05
技術開発 報告

自動走行時の視覚と前庭感覚制御による 快適なエンタメ体験の実現

奈良先端科学技術大学院大学
准教授 澤邊 太志

15:35
イベント事業 報告

放送の未来を担う人材育成・交流事業

地方の映像クリエーター育成実行委員会
副委員長 小山田 文泰（青森放送 報道局長）

休憩

16:10
人文社会 報告

ケニアの教会におけるデジタル・テクノロジーの活用

東京外国语大学アジア・アフリカ言語文化研究所
フェロー 吉田 優貴

日 時

2026年 3月 4日 (水) 15:00~16:35

会 場

ホテルルポール麹町 2F 「サファイア」 東京都千代田区平河町2-4-3

参 加 費

無 料

◆参加申し込み◆

〆切 3月2日 (月)

どなたでもご参加いただけます。
放送文化基金のホームページ
または右のQRコードから
お申込みください。



お問合せ :

放送文化基金

〒150-0047 渋谷区神山町9-6

TEL: (03)5738 -7151

担当 甲斐、馬越、安部

放送文化基金 成果報告会

報告概要

【技術開発部門】



自動走行時の視覚と前庭感覚制御による 快適なエンタメ体験の実現

奈良先端科学技術大学院大学

准教授 澤邊 太志

自動走行車の実用化を見据え、搭乗者の快適性をいかに評価・設計するかを検討するため、自動走行時に生じる予測困難な挙動変化が搭乗者に与えるストレスに着目した。視覚および前庭感覚を制御するシステムによって、その軽減・抑制を図る手法の開発を目的とする。さらに、行動自由度が拡張される走行環境において、映像視聴を含むエンターテインメント体験が搭乗者の認知や主観的快適性に与える影響についても検討した。実車両を用いた被験者実験を通して得られた知見をもとに、臨場感向上やストレス軽減・抑制効果に関する検証結果を報告する。

【イベント事業部門】



放送の未来を担う人材育成・交流事業

地方の映像クリエーター育成実行委員会

副委員長 小山田 文泰（青森放送）

地方からの映像発信を担う人材の育成と交流を目的として実施した一連の事業内容を報告する。2月21日（土）に開催するパネルディスカッション「映像のチカラ 地方のチカラ 未来へ」では、地方発映像の意義や可能性についてパネラー3名が意見を交わし、来場者からの質問にも答える。その議論の内容と成果を共有する。また、2月22日（日）に実施する短編動画制作ワークショップでは、高校生が3チームに分かれ、現役ディレクター3名の助言を受けながら作品のブラッシュアップを行う。その中から完成した5分間の短編動画1本（またはダイジェスト）を紹介する予定である。

【人文社会部門】



ケニアの教会におけるデジタル・テクノロジーの活用

東京外国语大学アジア・アフリカ言語文化研究所

フェロー 吉田 優貴

2024年8月に実施したケニアのキリスト教教会での調査に基づき、同教会におけるデジタル・テクノロジーの活用状況を報告する。具体的には、携帯電話番号と身分証明書番号・氏名を紐づけたアカウントで利用されるキャッシュレス決済サービス「M-PESA」が、日常生活のみならず礼拝時の献金にも用いられている点を取り上げる。あわせて、COVID-19を契機に始まり現在も継続している日曜礼拝のライブ配信について検討する。写真資料を交えながら、教会によるデジタル・テクノロジーの活用を人々がどのように経験しているか報告する。

放送文化基金のホームページでは、
最新情報はじめ、コラム、レポート、
インタビューなど多彩な記事をアップ
しています。ぜひご覧ください！

